

でいる。

成功する国際

コミュニケーション

猪口邦子

(上智大学教授)

ジュネーブでの軍縮大使としての任を終え、東京での教授職に戻って早くも一年になるが、外交の現場で得た国際コミュニケーションの心得は学会活動や市民活動など広く応用可能である。どうしたら国際コミュニケーションは成功するかとよく聞かれるので、基礎的的心得をここで考えてみたい。

まず、あまり気負わず、さりげなくも先方が話したい内容を引き出すようなよき質問者となることが効果的である。日本では質問とは、困ったときのみ発するものと思われがちだが、海外では質問は有意義な会話への突破口のようなものである。質

問は、相手に関心を抱いていることを表す記号となり、また相手は話す機会を得て生き生きと会話に応じてくることが多い。

成功するコミュニケーションは、先方が自らの考えを巧みに述べることができたという満足感から始まり、人は自らが納得した場面をよく記憶しているものであるから、そこからよい人間関係を築くことができる。大抵の場合、相手は質問に答えた後、それでは貴殿の立場は？と今度は尋ねてくれるので、相手の関心がこちらに向いた段階で当方の考えを開陳することになる。気負って我先にと大声で話そうとするより効果的である。

他方で、遅れて自分の考えを伝えるときは、表現のポイントを印象的な言葉に凝縮していく能力が必要である。そのような表現はサウンド・バイトと言われ、響きが認識形成に強く作用

の年次や、学校・大学の出身が同じということにこだわり過ぎて他の人間関係への熱意が薄くなりがちな人は、国際コミュニケーションには向かない。国際社会では広く開かれた精神構造が共感を呼び、自らの責任と集中力において構築した人間関係の厚さや評判が、職務上の地位をこえて先方から人間的な信頼を得る契機となる。また国際コミュニケーションにおいて、適切なタイミングで、だれか新たな共通に知るべき人を紹介してくれるよう願ひ出るのは、有意義なプロセスにつながることも多い。この場合、その新たな関係性の推移を折に触れて先方に報告し続けることが紳士淑女の作法でもある。

さて、国際コミュニケーションに向かうときは、よい姿勢で颯爽と、というのも基本である。直角は英語で right (正しい) angle と言ひ、それこそ

が、大地との関係における紳士淑女の正しい角度という意味である。

旅日記にみる求道者

慧海

高山龍三
（日本ネパール協会関西支部長）

河口慧海とは、漢訳に依らない仏典を求めたい一心から、当時禁断の地であったネパール、チベットに入り、世界中の探検家がなしえなかったラサ滞在をした明治の禅僧である。その『チベット旅行記』は貴重な記録を遺した名著として今日まで読みつがれ、英訳本によって、むしろ海外でその名が知られている。

最近、その自筆の旅日記が、めいの宮田恵美さん宅で発見された。今まで存在がうわさされながら、個人の記録ゆえ、公表をためらい、積極的に探されな

する表現である。

たとえ、毎年五〇万人もが亡くなる小型武器問題に軍縮大使として取り組んでいたところ、アナン国連事務総長が「小型武器は事実上の（デファクト）大量破壊兵器」と表現してくれたことがあった。問題の深刻さに世界を自覚めさせるきっかけになった一言である。同問題の国連会議議長を私が務めたときは「オーナーシップ（自らのものとして大事にしていく感覚）」の表現を掲げて各国の協調的対応を引き出したことがあった。被害国も支援国も政府もNGOも各々の観点から小型武器の国連軍縮プロセスにオーナーシップを抱くという表現によって自発的なコミットメントを促すことになった。国連の議場が各国の非難合戦で混乱しかけたときは、各国政府代表に「ベスト・アンド・ブライテスト」と呼びかけた。

た。「国連に集う各国のベスト・アンド・ブライテストの皆さん。貧困により命を落すこともなく、識字の機会を奪われることもなかった皆さんの才能は、互

の工夫だが、それができるようになるためには、ものごとを概念や抽象的枠組みで考える教育を得ていることが必要であり、本来、大学や大学院など高等教育

日記

三木卓

襤褸らんろのスカートは 今年のファッションである
ワセダがタマリバに勝った
きみは 悍馬かんばたちが描く 性的な曲線に魅せられ
ぼくは 荒れ狂った心電図を 見つめている
少年のオートバイは 不安定だった
薄むらさきの 日暮れ
かれが 倒れたあたりを
玩具のような犬が 女主人と散歩している

注 タマリバはラグビーのクラブ名。多摩川にあらす。

いにのしり合うためではなく、平和を甦らせるためにあります。議場は静まりかえり、議事は成功裡に進んだ。このようにほんの少しの表現

育機関の使命のひとつはそのように認識形成や表現をあらゆる場面でリードする能力を育てるところにある。私としても本務校での後進の教育に反映させた

い実務分野からの宿題である。米国の初の女性国務長官で国際政治学者のオルブライト女史はサウンド・バイト型の表現が巧みで有名であったが、スタンフォード大学教授だった今次のライス国務長官も早くも同様の評判を得ている。

ところで、よき質問者であったり、認識形成の達人であったりするためには、そもそも交渉内容に精通していなければならず、その準備には先方の倍は努力するという気負いが必要である。日本では夜遅くまで仕事する人が多いが、早く寝て早朝に資料の読みこなしや暗記を行えば時間数は同じでも効果は倍なので、気負っても体力的に大変なことはない。

円滑な国際コミュニケーションの準備としては、先方との共通の友人関係を思い出しおくことも重要である。入社・入省

の年次や、学校・大学の出身が同じということにこだわり過ぎて他の人間関係への熱意が薄くなりがちな人は、国際コミュニケーションには向かない。国際社会では広く開かれた精神構造が共感を呼び、自らの責任と集中力において構築した人間関係の厚さや評判が、職務上の地位をこえて先方から人間的な信頼を得る契機となる。また国際コミュニケーションにおいて、適切なタイミングで、だれか新たな共通に知るべき人を紹介してくれるよう願ひ出るのは、有意義なプロセスにつながることも多い。この場合、その新たな関係性の推移を折に触れて先方に報告し続けることが紳士淑女の作法でもある。

さて、国際コミュニケーションに向かうときは、よい姿勢で颯爽と、というのも基本である。直角は英語で right (正しい) angle と言ひ、それこそ

が、大地との関係における紳士淑女の正しい角度という意味である。

旅日記にみる求道者

慧海

高山龍三
（日本ネパール協会関西支部長）

河口慧海とは、漢訳に依らない仏典を求めたい一心から、当時禁断の地であったネパール、チベットに入り、世界中の探検家がなしえなかったラサ滞在をした明治の禅僧である。その『チベット旅行記』は貴重な記録を遺した名著として今日まで読みつがれ、英訳本によって、むしろ海外でその名が知られている。

最近、その自筆の旅日記が、めいの宮田恵美さん宅で発見された。今まで存在がうわさされながら、個人の記録ゆえ、公表をためらい、積極的に探されな